



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

## 知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 3749 号 2017.7.1 発行

認知症の「チャレンジング行動」…挑戦を受けているのはだれ？

読売新聞 2017年6月29日

### BPSDに代わり

認知症の人に起きる行動や心理症状を表すのに、「チャレンジング行動」(Challenging Behavior)という言葉を目にするようになりました。

認知症に伴う行動症状としては、暴言・暴力や徘徊(はいかい)、異常な食行動などが、また、心理症状には幻覚や妄想などがあります。これらの症状を表すのには、従来、BPSD(Behavioral and Psychological Symptoms of Dementia=認知症の行動・心理症状)という言葉が使われてきました。国際学会によって合意され、日本でも定着している定義です。

### 周囲の環境に原因

それがなぜ、BPSDに代わって、チャレンジング行動という用語が使われるようになったのでしょうか。

海外の認知症政策に詳しい東京都医学総合研究所心の健康プロジェクトリーダーの西田淳志さんによると、認知症の行動・心理症状は「当事者の側に問題があるのではなく、当事者を取り巻く周囲の側にある」という風に、近年、考え方が変わってきたためだそうです。

認知症の行動・心理症状は、周囲の環境によって表れたり、悪化したりすることがあります。諸外国が認知症政策を作るにあたって、認知症の当事者が関わる機会が増えてきたことも、原因を当事者でなく社会の側に求めよう、という考え方が変わってきた背景としてあるようです。認知症に関わる事象をどういう言葉で説明するかは、「認知症政策の考え方そのものにかかわる大切な問題です」と西田さんは指摘します。

### 難しいが、やりがいがある

そこで登場したのが、「チャレンジング行動」という表現です。「チャレンジング」には、「挑戦的な」以外に、「難しく能力を問われる」、「やりがいがある」などの意味があります。つまり、チャレンジング行動とは、ケアをする側や認知症の人を取り巻く社会の側にとって、「対処が難しいが、やりがいのある(認知症の人の)行動」ということです。

### レッテル貼りにはならぬよう

チャレンジング行動という言葉は、日本ではまだまだあまり普及していないようです。ぴったりした訳がないことも、その理由の一つかもしれません。

イギリスの認知症ケアの実践者・研究者の著書「チャレンジング行動から認知症の人の世界を理解する」を監訳した筑波大准教授の山中克夫さんによると、チャレンジング行動という言葉は、元々発達障害などの分野で使われており、それが認知症においても用いられるようになったということです。

日本語にする時に「挑戦的行動」と訳すと、本人が周囲に挑戦的・挑発的な行動をとっているような誤解を与えかねない。そこで最近「チャレンジング」というカタカナが使われ出していることもあり、訳書では「チャレンジング行動」と表記したそうです。

山中さんは、「この際、新しい日本語を考えるのも良いかもしれない。ただ、どんな言葉にせよ、レッテル貼りになってはいけない。本人と周囲がみんなで問題解決に向かっていくようなものでないと意味がないことを肝に銘じておく必要があります」と話しています。  
(田村良彦)

## 障害者施策をもっと熱く 都議選「演説で話題にもならない」

東京新聞 2017年6月29日

2020年東京五輪・パラリンピックに向け、京王線飛田給駅から味の素スタジアムへと向かう歩道の問題点をチェックする障害者団体の関係者ら＝27日、東京都調布市で



東京都議選（七月二日投開票）で障害者施策の訴えが少ないとの声が障害者団体から上がっている。新しく選ばれる都議は、二〇二〇年東京五輪・パラリンピックの開催から一年後に任期が満了する。「パラリンピックを控え、障害者にも健常者にも暮らしやすい街づくりの論戦を期待していたのに」と失望する団体幹部もいる。

(神野光伸)

「高齢者や保育に関する訴えはあっても、障害者施策をどうするかが聞こえてこないのは不可解だ」。自身も目が見えない都盲人福祉協会の笹川吉彦会長（83）は、通勤で利用する駅前でも都議選候補たちの街頭演説に耳を傾けてきた。

駅ホームで視覚障害者が転落する事故が相次ぎ、ホームドア整備は喫緊の課題だが、「演説では、話題にもならない」と苦笑する。聞こえてくるのは、対立する党の批判ばかり。「候補者には障害者の現状を認識してもらいたい…」

都議選で各党は公約などに障害者施策を掲げる。だが、ある区で告示前に開かれた立候補予定者の公開討論会では、市場移転問題や待機児童対策など四項目のテーマから、障害者施策は漏れた。討論で、参加者十数人のうち障害者支援の話題に触れたのは一人だけだった。

聴覚障害者制度改革対策東京本部は今月十六日、手話を「言語」として定める手話言語条例の制定や、街頭演説での手話通訳の導入などで、各党の見解を問うアンケートを実施した。

各党とも、それぞれの課題の重要性は認めた上で自前の政策を挙げたが、同本部に加盟する都聴覚障害者連盟の越智（おち）大輔事務局長

（60）は「実現に向けた具体的な回答はなかった。聴覚障害者の参政権はまだ十分に保障されていないと感じた」と残念がる。同本部は国政選挙や都知事選でも同様のアンケートを実施してきたが、「私たちの要望はなかなか実現されない」。

海外から多くの障害者が訪れるパラリンピックに向け、障害者団体は障害者が使いやすいインフラ（社会基盤）の整備などが進むことを願っている。

全国の障害者団体でつくるNPO法人「DPI日本会議」の今村登事務局次長（52）は頸髄（けいずい）損傷で手足が思うように動かせず、車いすで生活する。「パラリンピックをきっかけに障害者に配慮した街づくりが進めば、健常者も住みやすい街になるはず。都議選では、そんな訴えがあってもいいはずだ」と話している。

### 各党が公約などに掲げる主な障害者施策

自民	都内全域バリアフリー化、在宅就業支援
公明	障害者就労支援センターを全区市町村に設置
共産	国連の障害者権利条約を都政に反映
民進	駅のホームドアの100%設置
都民	24年度末までに障害者雇用4万人増
ネット	当事者参加による差別解消の仕組みづくり
維新	成人期障害者への就労支援
社民	都民参加での障害者差別禁止条例の制定

※上から都議会の勢力順、社民は議席なし

#### ◆五輪アクセス バリアフリー調査

二〇二〇年東京五輪・パラリンピック組織委員会と東京都は今年二十七日、障害者団体の関係者と競技会場へのアクセスを視察し、利便性向上に向けたヒアリングを行った。

この日は五輪でサッカーなどの会場となる味の素スタジアム（調布市）に最寄り駅から移動し、車いすや補助犬の利用者らが歩道の整備やエレベーターの使い勝手を確認。「点字ブロックが分かりにくい」「補助犬用トイレの整備が必要」などの意見が出た。

組織委と東京都は今後、他の会場でも視察を行って意見をまとめる方針。

#### 今村・西宮市長 随意契約、あり方改善 障害者就労施設巡り／兵庫

毎日新聞 2017年6月29日

NPO法人「西宮障害者雇用支援センター協会」（西宮市）が約5億円の源泉所得税の納付漏れを指摘されたことを巡り、今村岳司市長は28日の市議会本会議で、同協会を含めた障害者就労施設との随意契約のあり方を再検討する考えを示した。

佐藤道子（共産党西宮市会議員団）、花岡豊（市民クラブ改革）の両市議の一般質問に対する答弁。

市は障害者の雇用就労の安定などを目的に随意契約を行っており、協会は河川敷や公園の清掃などを受注。

#### 新発田名物おいしくサンド 7月1、2日の「寺びらき」で販売

新潟日報 2017年6月30日

##### 障害者福祉施設の食パンに名物のメンチカツを挟んだサンドイッチ＝新発田市

障害者が働く新発田市のレストラン「萌芽」が、同じ社会福祉法人が運営する障害者福祉施設「夢工房しば草」の食パンに、市内の名物メンチカツを挟んだメンチカツサンドを開発した。柔らかいパンとメンチカツの食味を楽しめる一品で、7月1、2の両日、市内で開かれる「しばた寺びらき」の会場で販売する。その後もイベント会場で取り扱い、今秋をめどに定番商品化する計画だ。

障害者福祉施設はのぞみの家福祉会（新発田市）が運営。評判の食パンと地元の名物の味と組み合わせることで、新発田の新しい名産品にし、施設利用者の所得増加にもつなげようと企画した。

メンチカツは同市五十公野の精肉店「いじみの肉や」で販売しており、さくさくとした食感の衣とジューシーな味わいが地元で根強い人気を誇っている。食パンは夢工房しば草で製造し、高品質な小麦を使うことで、もちりと柔らかい食感や小麦の風味を楽しめ、完売する日も多い人気商品だ。パンとメンチカツ本来の味を生かすためソースを使っていない。

「寺びらき」会場の一つである中央町2の託明寺境内で1パック400円で1日30食限定で販売する。今後も地元の和菓子や農産物と組み合わせた商品群を開発する予定で、施設は「新しい新発田名物にしたい」と意気込んでいる。



#### 虐待防止 根絶へ包括協定 知的障害者協・弁護士会 山口

毎日新聞 2017年6月30日

山口県知的障害者福祉協会と県弁護士会が、障害者施設での虐待防止を目的に包括協定を結ぶことが29日、決まった。2015年に発覚した同県下関市の知的障害者福祉施設「大藤園（おおふじえん）」での虐待事件を検証してきた同協会の最終報告書がまとめ、「虐待はどの施設でも起こり得る」として、外部の目を入れる必要性を提言した。弁護士



が施設の職員や利用者の相談に応じたり、職員研修のため講師を派遣したりする。【坂野日向子】

### 介助バイト 求む 時給1100円、週1回1時間でも 「障害者の自立に関心を」 西宮のNPO呼びかけ /兵庫

毎日新聞 2017年6月30日

介助者を募集する協会のメンバーら＝兵庫県西宮市の甲東園駅前で、田辺佑介撮影

介助のアルバイトしませんかー。障害者の自立を支援するNPO法人「メインストリーム協会」(西宮市)が先月から阪急今津線甲東園駅前で呼びかけている。時給1100円。シフト制。週1回1時間でもOK。未経験者も歓迎。メンバーらは「バイトで介助はなじみがないかもしれないけれど、やってみませんか。障害者のイメージ、変わりますよ」と、こんな条件で募集中だ。【田辺佑介】



### <むすび塾>障害者の防災考える 被災施設跡視察

河北新報 2017年6月30日

砂押川の堤防を背に「さくらんぼ」跡地を視察する参加者＝宮城県多賀城市栄

河北新報社は29日、通算68回目の防災・減災ワークショップ「むすび塾」を宮城県多賀城市で開いた。災害時、障害者の命をどう守るかがテーマ。当事者や支援者ら10人が参加し、東日本大震災の津波で被災した同市沿岸部の障害者施設「さくらんぼ」の跡地を視察、当時の避難経験などを基に備えの在り方を語り合った。

さくらんぼは近くを流れる砂押川と仙台港の両方向から津波が押し寄せて全壊。知的障害者ら利用者は歩道橋に上って一夜を明かすなどして全員無事だった。



引率した当時の職員で、現「さくら学園」(塩釜市)施設長の山崎雅博さん(44)は「地域住民の呼び掛けで避難でき、間一髪で助かった。日頃の交流が生きた」と振り返った。

視察後は、さくらんぼが現在入る多賀城市の「みやぎ復興パーク」で意見交換。支援の前提として、障害者の存在が平時から知られていないとの声が相次いだ。

車いすを利用する参加者からは「障害者自身が地域にもっと姿を見せるべきだ」(矢吹文敏・日本自立生活センター代表)「地域の防災訓練に障害者が参加する必要がある」(杉山裕信・C I Lたすけっと事務局長)との指摘が出た。みやぎ復興パークの鈴木登之和(としかず)事務長(58)は、車いす利用者も参加した防災訓練を重ねていることを紹介し「実施してみて初めて気付くことがある」と強調した。

東北福祉大の阿部一彦教授(障害福祉学)は「障害への理解を深めるとともに、障害者が地域とのつながりを強めることが重要だ」と述べた。

### 重い心身障害もつ子の施設開所 病床数少ない愛知県 北上田剛

朝日新聞 2017年6月30日

愛知県内8施設目となる重症心身障害児者施設「信愛医療療育センター」が7月1日、豊川市に開所する。3年間で施設数の倍増を掲げた県の整備計画はこれで完了。全国最低

だった人口1人あたりの病床数も最下位から抜け出した。

#### 7月に開所する「信愛医療療育センター」＝豊川市

今月19日、同センターの内覧会。脳症の長女（1）を連れて訪れた田原市の男性（34）は「自宅から近くなる。家族の負担が減るから助かります」と喜んだ。これまで、仕事などで長女の面倒を見られないときは浜松市の施設に短期入所させていたという。同センターによると、3日間の内覧会には家族や医療関係者ら1530人が足を運んだ。



施設には、脳性マヒなど重度の知的障害と、肢体不自由が重複する人が入所する。リハビリなど通所で利用する人もいる。

県内では1968年、県立の「コロニーこぼと学園」（春日井市）が初めて開園。だが、その後は豊橋市と名古屋市に国立2施設と県立1施設が出来ただけで、計4施設（病床数390床）のまま2015年3月まで推移した。県によると、その時点での人口1人あたりの病床数は全国の都道府県で最低だった。

#### 生まれた意味、家族のあり方考える 来月8日に東大和で上映会

東京新聞 2017年6月30日

家族の絆を考えるドキュメンタリー映画「ずっと、いっしょ。」（豪田トモ監督）の自主上映会が七月八日、東大和市民会館ハミングホール（同市向原六）で開かれる。市内の障害者支援団体や福祉作業所などでつくる東大和障害福祉ネットワーク主催。

血のつながりのない息子を育てる父親、四十二年間連れ添った妻を亡くした夫、障害で一歳まで生きる確率が10%と言われた子を育てる夫婦の三家族の姿を通じて、生まれてきた意味や家族のあり方について問い掛ける内容だ。

同ネットワーク副代表の田淵規子さんは「障害にかかわらず、いろんな家族のかたちがあると分かる映画。たくさんの人に見てもらいたい」と話した。

午後一時半、入場料千二百円（小中学生、障害者と付添一人は千円）。字幕、音声ガイドがあり、聴覚障害者、視覚障害者も楽しめる。問い合わせは同ネットワーク事務局のNPO法人自立生活センター・東大和＝電042（567）2622＝へ。（林朋実）

#### ライブ 生きることの大切さ、歌や演劇通して伝える ダウン症患者らが開催 横浜・磯子で来月22日 /神奈川

毎日新聞 2017年6月30日

ダウン症や知的障害について理解を深めてもらおうと、患者らが音楽や演劇を披露するライブイベント「21番目の素敵な出逢い リターンズ」が7月22日、横浜市磯子区民文化センター杉田劇場で開催される。トランペットやピアノの演奏、「命の誕生」をテーマにした演劇を通じて生きる大切さを訴える。

知的障害や発達障害を持つ子供たちの社会参加を支援するNPO法人「ドリームエナジープロジェクト」（藤沢市）が主催

#### 利用者急減、存続の危機 県立野洲養護学校の寄宿舎

中日新聞 2017年6月30日

県立野洲養護学校（野洲市小南）の寄宿舎が存続の危機にある。設置当初三十人ほどいた利用者は、本年度九人に減少。背景に学校側の入舎基準が厳しくなったとの指摘があり、二十九日の県議会定例会議でも竹村議員が県の見解をただした。知的障害と肢体不自由を対象にした特別支援学校の寄宿舎は、県内で同校のみで、保護者から閉舎を心配する声も

上がっている。

県教委によると、同校の寄宿舎は二〇〇八年度に設置。通学時間が片道九十分以上か、通学が困難な児童生徒が、校長の許可の下、利用できる。

ただ、一三年度から学校を管轄する県教委が通学困難を判断する基準として、保護者の健康状態や福祉サービスの受給状況などを踏まえるとする見解を出した。それに付随するかのよう、〇八年度に二十九人だった利用者数は一三年度に十六人に減少、本年度は九人となっている。同校高等部三年の長男（17）が利用する守山市の和田泰代さん（49）は、長男が小学部五、六年の時に入舎希望を出したが、いずれも不許可処分に。県に不服申し立てをして、中学部二年の時、入舎がなかった。

長男は自閉症と重度の知的障害があり、気持ちが常に不安定で、和田さんのほか、夫も転職するなどして世話を当たった。長男は当初、スクールバスで登下校していたが、自宅からバス停へ向かう途中、車道に飛び出すなど事故に遭いかけたこともあったという。和田さんは「基準が厳しくなって受理されないため、申請をあきらめる保護者もいる。障害者を育てている家庭のことを親身に考えているのか」と憤る。（浅井弘美）

**車いす男性、駅前で無言の訴え 京都、4年の活動書籍化** 京都新聞 2017年6月30日  
月曜の朝、嵐電北野白梅町駅前（京都市北区）でメッセージを掲げ、無言のアピールを続ける男性がいる。車いすで毎週駅に来る井上吉郎さん（71）＝北区＝と仲間らが4年間の活動をまとめた著書「無言宣伝 京都・北野白梅町駅頭 月曜日のアサ」が発刊された。井上さんは、15日に法案が成立した「共謀罪」への反対を示すカードを胸にこれからも道行く人に政治への疑問を投げかけていく。

かつて京都市長選に3度挑んだ井上さんは教育や障害者問題などの住民運動に取り組んできた。11年前に発症した脳幹梗塞の影響で言語障害と右半身にまひが残った。

車いす生活の中で無言宣伝を始めたのは2013年11月、特定秘密保護法案に反対を訴えるためだった。ビラ配りも演説もできず、考えた末に伝えたいメッセージを掲げる「無言宣伝」に行き着いた。以来、毎週月曜の午前7時半頃から約1時間半、活動を続ける。



車いすに乗り、仲間たちと「共謀罪」への反対を「無言宣伝」で訴える井上さん（中央）＝京都市北区・北野白梅町駅前+

活動中、特定秘密保護法をはじめ、安全保障関連法などの法案が立て続けに成立していった。今回も「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ改正組織犯罪処罰法案が強行採決された。

井上さんは「共謀罪は心の中を捜査する。権力組織が『犯罪の恐れあり』と決め付けたら市民はその網から逃れられない。『モノ言えば唇寒し』になり、市民相互が監視する社会になる」と憤る。

言語障害が少し回復し、井上さんは駅前であいさつできるようになってきた。4年間で一緒にアピールする仲間や声をかけてくる通勤・通学客も増えて活動の広がりを感じている。

井上さんは「みんなに自分の主張を押しつけようとは思わない。9条の改憲の話も出てきた。駅前が古代ギリシャの『アゴラ（広場）』のような場所になり、無言宣伝がみんなが考える機会になればいい」と話す。

著書には井上さんたちの活動報告や参加者の感想、主張を掲載している。199ページ。1296円。ウインかもがわ刊。

「国文祭・障文祭なら2017」公式ガイド発行＝9月開幕－奈良県〔地域〕



時事通信 2017年6月30日

発行された「国民文化祭・なら2017」「全国障害者芸術・文化祭なら大会」の公式ガイドブックで紹介されている9月2日の開会式のイメージ図



奈良県は9月1日～11月30日の日程で開催する「第32回国国民文化祭・なら2017」と「第17回全国障害者芸術・

文化祭なら大会」の公式ガイドブック（A4判、64ページ）を発行した。15万部作成し、県内の主な文化施設、各市町村役場や近鉄主要駅などで無料配布する。

二つの文化祭を一体で開催するのは全国初で、39ある県内全市町村が参加する。計103のシンポジウムや音楽・美術、歴史・文化関係のイベントなどが予定されている。

**公式ガイドブックの表紙**



9月2日に東大寺大仏殿前で行われる開会式では奈良県出身の俳優八嶋智人さんが総司会を務め、伝統芸能や創作パフォーマンスが披露される。ガイドブックでは、開催月別に色分けして分類されたジャンルごとに各自治体のイベント開催期間、紹介ページへの検索番号が記され、分かりやすいつくりになっている。公式ウェブサイト（<http://nara-kokushoubun.jp/>）でも内容を見られる。（

**高齢者の身元、キーホルダーで確認 京都・福知山**

京都新聞 2017年6月30日

京都府福知山市社会福祉協議会（同市内記）は7月3日から、高齢者や障害者らに対し、緊急時に身元が確認できる「見守りキーホルダー」を配布する。府内の社協では初の取り組みで、徘徊（はいかい）や事故で保護された場合、身元を迅速に把握し、家族や医療機関への連絡などにつなげる。2日に福知山駅周辺で運用訓練を行う。

福知山署によると、昨年の認知症の徘徊による保護は市内で33件あり、保護理由で最も多い。市社協は、職員が電話などで24時間対応する「安心生活見守りセンター」で、登録者を対象に、日常の相談や緊急通報に対応している。さらに見守り活動を地域や関係機関と連携しようと、キーホルダーを配る。



徘徊や保護時の身元確認や医療機関への連絡などに役立つ「見守りキーホルダー」（福知山市内記・市社会福祉協議会）

希望者には、市社協で氏名や緊急連絡先、持病などを登録してもらう。キーホルダーには、高齢者らを保護した人に警察や消防への通報を促すメッセージのほか、同センターの連絡先、個人特定用のシリアル番号を掲載している。

同センターは、保護した人から連絡を受けると、シリアル番号を元にデータベースで照会して身元を確認し、家族らに連絡する。必要に応じて警察や消防に限り、既往歴や服薬歴などを伝える。

2日の訓練は福知山駅周辺で、惇明地区の住民や民生児童委員、警察などが運用態勢を確認する予定で、見学もできる。問い合わせは市社協0773（25）3211。

**おかやまアート事情 ももぞの学園の「作家」たち=柳生尚志 /岡山**

毎日新聞 2017年6月30日

「きらぼし★アート展」(山陽新聞社会事業団主催)が今年1～5月、北区の山陽新聞社・さん太ギャラリーで4期に分けて開かれ、社会福祉法人「ももぞの学園」の利用者9人によるアート作品が出品作380点の中から最優秀賞に選ばれた。

北区粟井の「ももぞの学園」は知的障害を持つ人たちの入所・通所施設などを運営している。障害を持つ人のアートは「アール・ブリュット」とも呼ばれる。フランスの画家ジャン・デュビュッフェが児童や障害を持つ人の作品を「生(き)の芸術」と呼んで称賛したことに始まる。「きらぼし★アート展」は岡山の一大アール・ブリュット展だった。

18歳以上の施設利用者が参加する、ももぞの学園の創作現場を訪ねることにした。

## 探せ未来のパラ選手 7月から4カ所で体験会 ボッチャなど5競技

北海道新聞 2017年6月30日

道は、2020年の東京パラリンピックで活躍する選手を育成する「北海道パラアスリート発掘プロジェクト」の体験会を7～10月に全道4カ所で実施する。車いすバスケットやボッチャなど5競技の体験を通じ、専門家が「有望」と判断した人材の選考もする。

他の対象競技は、車いすフェンシング、車いすラグビー、ブラインドサッカー。7月30日を皮切りに10月8日までに5回開く。

障害のある道内在住者に競技を体験してもらい、身体能力などを測る。年齢や競技経験は問わない。会場にいる各競技の専門家が人材をスカウトし、来年1～2月のセミナーで指導したり、適性テストを受けてもらったりする。

問い合わせは道スポーツ振興課(電)011・204・5254へ。

## 河北抄

河北新報 2017年6月29日

7月7日は「笹かまの日」だ。記念日として認められた2013年、一つの歌が生まれた。『笹かまラブソング 吉次(きちじ)とタ〜ラ』。障害者就労支援事業所職員の穀田千賀子さん(64)＝仙台市宮城野区＝が作詞作曲した。

♪君は色白タ〜ラ あなたむきむき吉次さん 焼いて焼かれて いやよあついわ この身をこがす おいしいおいしい笹かまになるためにー。ムード歌謡の曲調に、恋愛物語と笹かまの出来方を重ねるしゃれた歌詞。当時仙台であった笹かまソングコンテストで優秀賞を受けた。

仙台で今月上旬開かれた「とっておきの音楽祭」にタレントのワッキー貝山さんと参加、デュエットで歌った。手話歴27年の穀田さんは手話でも表現。聴衆にぬくもりが伝わり、笑みを誘った。

東日本大震災後、「老軽縁歌(ローカルえんか)歌手静音(しずね)ちか」として仮設住宅や災害復興住宅などでボランティアを続ける穀田さん。これまで笹かまラブソングなど7曲を作った。「歌をきっかけに人と人がつながり、明日を生きる力になればうれしい」。愛を込めた自作の歌で励ます。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行